齡者大学文芸部

前山を揺るがすごとく膨らみし春たけ なはの椎の 岩木夕工子

らんの花 いのちあるも のの形のやさしさよ蕾も 小さきすず 岡本トシ

散るとのから 鶯の啼き声聞こえ見上ぐれど姿は見えず青葉揺れ 通りの老舗消ゆ淋しき通りに桜舞ひ 北村玉恵

揚雲雀野はみどり児の匂ひして麦の穂ずれに鳴きゐる

連休の京都名所の若者の数多の中を八十の吾 音透きくる 山下菊代

ドライバーは低く告げたりハローワークに並ぶ人らを 山代鈴子 山代鈴子 宮本幸子

待てり しめりたる土盛り上げて双葉出づ隠元豆の育つを 安東綾子

荒草の中にまじりてひたに咲く矢車草の花の愛し

ŧ 中津ツユ

のそよげる 雲田郁子臥せて見る大根の花のいとほしさ陽の射す庭を風 雲田郁子



の

峡の寺ふんはりつつむ山桜万里越へ大和の土となる黄砂 廃校の歴史見守り大桜 車椅子妻が押しゆく花見かな ぼうたんに揺らす風さえ無かり けり

涅槃図の絵説切々僧若し目つむれば落花の乱舞いつまでも 轉りの膨らむ渡となりにけり 友の死を慎みて仰ぐ春の月沈黙を募らせて聞く初河鹿 堤防に庭に海髪干し島暮し 田

中ひさ子 鋤本トミ 中路郁子 松永久子 富田幸子 林まつ子 鈴子

打出 貞稲田羚子

平山邦子 宮本雅子

無住寺の堂縁高く竹の秋

狂句桜会 例会入選句集より

花嫁が むぞうなげ 若さ若さ 若さ若さ 若さ若さ 若さ若さ いたらん検査したがらす明かりを点けた過疎の村 ひ孫の居るて思われん脳は狂句で鍛えよる 母娘最合いで着らすシャツ 子供道連れしちゃならんビフテキになる肥育牛

光堀善教 藤野清子 須藤新生 窪田明徳 高木房惠 田中孝幸

北村妙子 美容体操 嘘ばかり 余分な物は食べんこつ分っちゃいるが続かないさすが政治家がつはある

田中レイ子

上村〇子

おりぬ 小田 木戸覆いピンクに染めて咲く桜我が家の桜青空に の 池そぼ降る雨に白鳥が涙するごと浮かび

映ゆ

庭隅の蕗の十本煮付けにしこと足りている一人の庭隅の蕗の十本煮付けにしこと足りている一人のる長身の脚 長尾はるみマラソンのトップランナーリズム持つ鍛えられた映ゆ

鮮やかな萌黄色あり 紅もあり 庭の楓は春紅葉せり 平嶋きくえ

隣屋の 黐の大樹に鶯のひと声鳴けば次の声待つ 大島きと

りいき家族を待ちて見送れり出産近き嫁の里がえ きくる 朝明け の冷たき空気心地よしそぞろ歩きに猫の従

しみつつゆ シルバーカー押してゆるゆる桜みち今年の花を惜

七城短歌会

となし 新緑を背にして見ゆる幟あり緋鯉に真鯉今朝はお 村上幾雄

草萌ゆる青き絨毯田をおこす

芹川のり子

旭志文芸俳句会

諸葛菜花も美し花床に

案じゐし従妹の訃報今朝に入る疎遠済まなき明日 をも行けぬ 佐々重弘

其処此処に水仙活けて時忘る

大阿蘇に浮かぶ火文字や忘れ雪

水谷ミネ

ミヤ子

東

芳子

卒業の子等送り出す桜草つちふるや追憶深し亡き妹に

中尾ヨシ

芹川蓉子

春の庭 障害者らと調子を合わせステージで歌う三十五周 真赤なる花ぼつぼつと木瓜咲きぬ蝶舞ひ来たる早れ、イル 岩津凉子

行儀良く背丈揃ひて葱坊主 たんぽぽを吹けば残りし丸き芯 はな みしだれぎくら

瞬 きて我れを見上げし蛙かなまたた となりゃ

藤本邦治

村山数恵

せせ

らぎ俳句会

芽吹く野に放たれし牛跳び操ねて

鳥達のその囀りは何と言う

(高一)

渡辺大寿

藤本アツ子

内村泊虹 寺本和子 五丁義昭 服部静子

坊守も美しく老ひ花の寺

年の我ら 連休にうからが集まり 亡夫待つ思い告げくれ庭のあなた 緒方寛子

宵の月 見上げれば雲一つなき朝の空柿の若葉が輝きて見 岩崎照代

草取ればパンジー 野に山にゆるぎありくし若き日の春は不思議な力 花茎ゆれる ·列なし際立ちぬ背伸びするがに 松岡みちえ 吉間充子

もちいし 妹は春三月の桜のもと静かに浄土に旅立ちにけり 斉藤芳子

川 甲子

夕映えの の流れに鴨三羽戯れ立つる波がきらめ

肥後狂句水笑会

月例会

勝ってくれ 東産で 凍み 難産で 花も散り 勝ってく 花も散り 耐えてます 耐えてます 勝ってくれ ル便 凍結さるるダム工事 打 委員の居らんPTA ちった着物のかるなった 中身はたいぎゃ分か 名所に猫も見あたら 飯もそこそこ見入っとる。タイムセールで食いつかぎ 医者の許しが出るまでは積年の憂さ晴らさにゃん 隣の孫の前走れ ・っとる 御手洗三代 中島五女 井手水光

15 広報きくち 2009 JUNE 6

広報文芸きくち

チラシに載ったダイエット

髙倉新米

田尻浩風